

連載

宇宙を観じる生活を！（3）

～黄華堂通信より～

黄華堂（代表 有本 淳一、メルマガ編集長 森谷 友由希）

「子どもたちに本物の星空を！」をモットーに関西を中心に観望会などの活動をしているボランティアグループ、黄華等が配信しているメールマガジン、『黄華堂通信』。星空案内、天文に関する絵本の紹介から研究従事者による研究紹介、はたまたクイズやメンバーの天文ルーツを辿る話題と、いろいろな話題を提供しています。ここでは連載でメルマガの話題をごくごく一部ですが紹介しています。今回は12月10日に日本から皆既月食が見られることに因んで月にまつわる記事を紹介いたします。

1. 『ひるまのおつきさま』 ～絵本で見る宇宙

今回は月をテーマにした写真絵本をご紹介します。

『ひるまのおつきさま』

遠藤湖舟 さく

（月刊 かがくのとも 2010年10月号）

雑誌 02377-10

この本は、お月さまからお手紙が届くことからはじまります。

『「ひるまの ぼくを みつけてね」

つき より』

「えっ、月は夜に見るものじゃないの？」

「昼間に月なんか見えないでしょ？」

いえいえ、そんなことはありません。皆さんも、一度くらいは見たことありませんか？

青空に浮ぶ、白い月。

そう、なかなか気付かないだけで、昼間にも月は見えているのです。この本には、様々な形の月が青空のなかに見えている様子を写真で見せてくれます。また、2010年10月を例に、どんなふうに見えるのかを紹介してくれています。

月が出る時刻は、約毎日 50 分ずつ遅れていきます。普通の人起きてる「夜」の時間帯に月が見えるのは三日月～満月の二日後くらいまでです。下限の月になると、昇ってくるのは夜の 11 時ちかく、それなりに空高くに見えるようになるのは夜の 1 時ころです。逆に、日の出のときに真南に来ていますから、午前中の南西の空に見えているわけですね。

実は、新月をはさんで前後二日間、満月をはさんで前後二日間をのぞけば、ほぼ毎日、青空の中に月を見つけることができます。

天体を見るのは夜、と決めつけずに、ぜひ、昼間の月探しを楽しんでみてください。晴れていれば、空にお月さまが見えていない日の方が少ないのですから。

（塚田健、黄華堂通信 2010年9月号より）

2. 月ってどうやって研究してきたの？ ～あなたの知らない宇宙

月は約 46 億年前に出来ました。それ以来、月は地球の一番近い衛星として親子のように、双子のように寄り添ってきました。大昔の人々もきっと月を見て色んな事を考えていたのでしょうか。そして神話やおとぎ話で月に言及しているのは、もしかしたら作者の方が月に魅せられたからかもしれませんね。私も

月に魅せられたのがきっかけで月研究をするようになりました。

月を系統立てて研究が始まったのは、ガリレオが約400年前に望遠鏡を月に向けてから始まりました。そしてそれ以来、多くの人たちが望遠鏡で月を見て月のクレーターや月の海（暗い部分）のことを研究してきました。その中には月のクレーターは火山の噴火によって出来たものだとする主張などもありました。現在ではクレーターは隕石の衝突によるもの、そして月の海はベースンと呼ばれる直径数百 km 以上の巨大クレーターに火山活動による溶岩が流れ込んだものという事が解っています。

月の形成過程（歴史）を大きく分けると次のようになっています。[1]

- ①月原始球体形成・・・約46・45億年前
- ②初期地殻形成時代・・・約45～43億年前
- ③隕石重爆撃時代・・・約43～38億年前
- ④火山活動時代・・・約42～35億年前
- ⑤平穏時代・・・約35億年前～現在

これらの結果はアポロ時代、すなわち1950年代後半より行われた人工衛星を使用した研究により得られた知見です。現在では望遠鏡を使用した研究より、月探査用人工衛星を使用した研究が主になっています。日本も2007年9月に大型月探査衛星SELENE（愛称：かぐや）を打ち上げています。その後、中国、インド、米国と続いて打ち上げられました。肉眼で研究していたのが望遠鏡へと変遷し、今は直接人工衛星を送って研究する時代へと変遷しています。

（木下克之、黄華堂通信2010年9月号より）

3. ふたつの名月 ～星空歳時記

秋といえば多くの方が思いつくのがお月見ではないでしょうか。今回はお月見のお話をしましょう。

お月見は旧暦の8月15日、つまり中秋の

日に月に向かってお供え物をして、月を鑑賞する行事です。この日にはお団子やお餅、ススキ、そしてサトイモをお供えするのが慣わしです。古くから日本ではサトイモにちなんで「芋名月」と呼ぶこともあります。

このお月見のルーツは実はよくわかっていないのですが、起源は中国にあります。中国ではこの時期がサトイモの収穫の時期に重なります。ですから、おそらくはサトイモの収穫祭的な意味合いがあったのではないかとされています。

また、お月見は日本に入ってから、中秋の日だけでなく、旧暦の9月13日にも行われるようになりました。こちらのお月見は「後の名月」だとか「栗名月」と呼ばれています。今年はこちらも終わりましたが、2012年の「芋名月」は9月30日（日）、「栗名月」は10月27日（土）にあたります。秋の夜長に二つの月をじっくりと比べてみてはどうでしょうか。

（有本淳一、黄華堂通信2009年9月号より）

文 献

[1] 黄華堂通信のwebにそれぞれの過程についての説明が載っています。

<http://www.oukado.org/merumaga-1009.htm>

森谷 友由希